

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

学校名	白石町立六角小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力の向上」では、全職員で共通理解のもと取り組み、マイプランの成果指標の達成度も着実に向上している。次年度は、児童の学力の向上が、客観的な結果として実感できるよう、これまで以上に重点項目を絞った取り組みを行っていく。</li> <li>・「自分にはよいところがある」といえる児童の割合が低い水準にとどまった。今後は、児童が自己肯定感を高められるよう、主体的に取り組める活動や体験活動を計画的に仕組んでいく。</li> <li>・上半期に比べ、職員の時間外勤務時間も減少し、月2回の定時退勤も意識してできるようになってきた。次年度は、行事だけでなく、職務内容を見直し、校務の削減に取り組んでいく。</li> </ul>		
2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに成長し続ける児童の育成		
3 本年度の重点目標	①主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善 ②人権教育、特別支援教育の充実 ③家庭や地域との連携による望ましい生活習慣の形成		
4 重点取組内容・成果指標	(1)共通評価項目		
	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組
	評価項目	取組内容	主な担当者
●学力の向上	○確かな学力をつけるために、分かりやすい授業づくりへの共通理解と共通実践	○「見通しをもって粘り強く取り組むことができる」と回答した児童を80%以上	・授業づくりステップ1・2・3の振り返りを定期的に行い、問いをもち、見通しをもたせる授業づくりにつなげていく。
		○授業づくりステップ1・2・3を意識し、ステップを1から2、2から3へとあげることができる教師を85%以上	・基礎基本の定着のため週2回のスキルタイムの取り組み方の共通理解を図り、10分間集中して取り組ませる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友達の頑張りやよさを認めたり、見つけたりすることができた。」と回答した児童を90%以上	・友達のキラリや作品等の良いところ見つけを教育活動の中で意図的に行うことで、認め合う心を育てる。
		○「協働」についての質問に対して、肯定的な回答をした児童を90%以上	・個々の良さを生かすためのグループ活動や縦割り活動等を計画的に取り入れる。
●健康・体づくり	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていたと回答した教員を90%以上	・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。
		○「不登校対策支援シート」の活用と「心の元気チェック」、年間2回の教育相談週間等を実施することで教育相談体制の充実に図る。	・「不登校対策支援シート」の活用と「心の元気チェック」、年間2回の教育相談週間等を実施することで教育相談体制の充実に図る。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリアパスポート等を活用し、自分の成長や頑張りを振り返る学習活動を特別活動の時間を中心に計画的に取り入れる。
		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上	・児童への一日ひと褒めを実践し、児童の意欲と自己肯定感を高める。
●「望ましい生活習慣の形成」	●「安全に関する資質・能力の育成」	○「自分の子供が起床・就寝時間を守ろうとしている。」と回答した保護者を85%以上	・毎週の清潔検査で自己の生活を振り返ることができるようにする。
		●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・保護者に対しては、「六角っ子がんばろう週間」を通して生活習慣の定着を働きかける。清潔検査や生活アンケートの結果を伝えることで、課題等を共有し、家庭との連携を図る。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・年6回の登校班チェックや事前事後の指導を充実させる。
		○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・町内一斉定時退勤日を徹底するために、事前に予告し、見通しを持って職務にあたるようにする。
○特別支援教育の充実	●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・放課後の時間が有効に活用できるよう、会議等について担当職員への事前の働きかけを行う。
		○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・特別支援に関する研修会の実施
	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組
	評価項目	重点取組内容	主な担当者
○特別支援教育の充実	○特別支援教育についての全職員の共通理解と共通実践	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・特別支援に関する研修会の実施
		○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・月1回の特別支援・生徒指導連絡会の実施により情報を共有する。
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・ケース会議を適宜、状況に応じて開催することで職員間の連携を図る。
		○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上